

# 1995 October 24 の皆既日食の ビルマにおける観測結果

西山峰雄

この皆既日食については、1994年3月、中村幸夫氏に予報計算をしていただいて経路図を作り、自分自身観測に行くつもりで、友人、国内雑誌社、在日ビルマ人、ビルマの戦時特別留学生（私の在学した旧制福岡高校には昭和19～20年東南アジアの戦時特別留学生がいました）に配布しました。皆さん反応は余りなく、ホテルや旅行条件の悪いミャンマーは、現地も日本人も関心を持っていないなという感じでした。ビルマには日食観測の報告例は過去一回もなく、ビルマの星座を調査している私としては、天文学の良い種を撒くことができるだろうと考えたのです。しかし私は体調悪く断念しました。誠に残念でした。インドやタイ、カンボジア、ヴェトナム、マレーシア（北ボルネオ、サバ）、インドネシア（サンギハ島）の報告は出ましたが、大国であるにもかかわらず、ミャンマー（ビルマ）の報告は「日食情報」にも新聞、雑誌にも全然見あたりませんでした。

今年になって、東京でミャンマー展覧会が代々木のフジタ・ヴァンテで開催され、大阪の双和化成の秋田 甫さんがビルマの古都 Pye ピュー（Promé）（北限界線寄り）で観望されたことを聞き、また、岡山大学でビルマ研究会が開催され、東京のアジア経済研究所の高橋昭雄さん（当時ビルマ在住）からピューの南のオッポ Okpo（中心線より南寄り）まで車で遠征し、ヤンゴン（旧ラングーン）の日本人小学校の父兄子供、数家族が観望されたことを知りました。子供さん達はコロナに歓声を上げて喜んだそうですが、現地の人たちは日食を知らされておらず、静かに空を見上げていただけだったそうで、インドネシアやメキシコとは大変な違いです。ビルマ語新聞には日食予報や結果は出ていなかったそうです。マレーシア・クアラランブールの新聞はサバーでのコロナ写真を翌日に掲載していますが、ビルマは天文現象にまだ関心薄いようですね。タイにはただ1台のバンコック・プラネタリウム会の会というベキタイ天文学会がアマチュアの集まりとしてありますが、ミャンマーにはプラネタリウムこそ3台ありますが、航海教育用に2台、青少年教育用に1台であり活用されていないようです。アマチュアの会はもちろんプロの天文学者がいるのかどうかも私には掴めていません（歴委員会という毎年の祭日を決定する組織はあります）。若い日本人アマチュアが現地にとけ込めれば、良い指導者になれそうですね。私は観測に行けませんでした。作った経路図がこの2カ所で活用されたことを喜んでいます。

(1997.Apr.7.)